

教育センター だより 第90号

平成30年10月1日発行
佐野市教育センター
佐野市上羽田町1134番地1
電話(20)3108
(20)3048(相談専用)

『未来を担う子供たちに必要なものは何か』

佐野市教育センター所長 野城 久雄

「女性の2人に1人が50歳以上に」

新聞のコラムに掲載された日本の少子高齢化の現実を知り、驚きました。早速、コラムで紹介されていた書籍『未来の年表』～人口減少日本でこれから起きること～(河合雅司著)を求め、目を通しました。わずか2年後の2020年には、50歳以上の人口が49歳以下の人口を追い抜き、たとえ出生率が向上しても、未来の母親となる女兒の数が減っているため、少子化は止まらないというのです。

佐野市の少子化の現状

実際に、佐野市の児童生徒数の推移をみると、昭和60年度には17,454人の小中学生がいましたが、今年度は8,625人と、この30年余りで半減しています。当時39校あった小中学校も、葛生・常盤中学校区小中一貫校が開校する3年半後には、15校減の24校になります。少子化による学校の統廃合は、全国各地で起きている事象で、適正な教育環境を維持するには、やむを得ない選択です。

今後、起こり得ること

『未来の年表』の中では、以下のようなことも予測されています。

- 2024年 3人に1人が65歳以上の超高齢者大国へ(介護する側も要介護認定)
- 2033年 全国の住宅の3戸に1戸が空き家になる(景観が崩れ治安も悪化)
- 2035年 「未婚大国」が誕生する(男性の3人に1人、女性の5人に1人が生涯未婚)
- 2040年 自治体の半数が消滅の危機に(県庁所在地ですら消える可能性)

その他、輸血用血液が不足する、銀行や老人ホームが地方から消える、火葬場が不足する、外国人が無人の国土を占拠する等々。楽観的に構えて何の対策もしないでいると、これらのことが全て現実になってしまうかもしれません。

子供たちも知るべき未来予想

子供たちの未来に夢や希望をもたせたいと願うのは、いつの時代も同じです。同時に、これから日本が迎える少子高齢化がもたらす影響を子供たちに伝え、自分たちの問題として捉えさせることが必要だと感じています。各教科等の学習を通して、知識・技能を習得させ、思考力・判断力・表現力等を育成するのみならず、健康で、幸せに生きていくための具体的な術を私たち大人が、子供たちと一緒に考えていくことが大切であると思います。

困難な時代を生き抜くために

地球温暖化の進行、地震・台風・豪雨などの度重なる自然災害、人工知能の飛躍的な進化による雇用の変化など、どのような世の中になるのか分からない時代を生き抜かなければならない子供たち。彼らには、変化に対応できるたくましさや柔軟さ、困難な状況でも助け合いながら克服する協調性などが求められます。そのためにも、高齢者や障がい者等への思いやりの心を育む福祉教育、望ましい職業観を育むキャリア教育、情報活用能力とモラルを育成する情報教育、自然環境保護に向けて実践的な態度を育む環境教育、コミュニケーション能力の育成を重視した外国語教育などをしっかりと進めていく必要があると感じています。